

育てたい子ども像にせまる 学校の特色を活かした 特別の教科 道徳の カリキュラム・マネジメント

横浜国立大学教職大学院 教育学研究科高度教職実践専攻
伊勢原市立緑台小学校
柏木 裕子

1. はじめに

2020年度から順次導入される新学習指導要領ではこれまでの知識偏重型から脱却し、思考力や表現力を主体的に育むアクティブラーニングを重視する方針を掲げている。本校でも導入にあたり準備を進めているところである。

2. 学校の課題

新学習指導要領実施に向けて、カリキュラム・マネジメントが重要になる。そこで本校では現在の学校の特色や児童の実態を捉え直すために、職員にアンケートを実施した。(4月下旬配布 5月上旬回収)明らかになった児童の実態は、素直でやさしいという「強み」と、あいさつが消極的、人任せなところ、積極性に欠けるなどの「弱み」である。継続して行っている米作りや飼育活動などの特色を活かし、児童の「強み」を伸ばし「弱み」を改善していくことを鑑みると、「特別の教科道徳」に焦点をあてることは必然である。このことから道徳の全体教育計画を作成し、授業実践や検討を通して授業改善を模索し、PDCAサイクルを回していくことで育てたい子ども像にせまる必要がある。

3. 仮説

本校の特色を活かした道徳の全体教育計画を作成し実践することで、児童の「強み」を伸ばし「弱み」を改善でき、育てたい子ども像「自ら考え行動する子」にせまることができるであろう。

4. 内容・方法・評価

①研究推進委員会、道徳担当部会に参加

研究推進委員会に参加し研究の方向性を検討した。アンケートから見えた実態を基に育てたい子ども像を「自ら考え行動する子」とした。具体的にイメージすることで、学校教育目標を意識化することにもつながる。

②特別の教科道徳の全体教育計画案の作成

道徳担当者部会では、主に「特別の教科道徳」の全体教育計画案を作成する。児童の実態や育てたい子ども像を見直したことでビジョンを共有化し、学校の特色を活かしていくための全体教育計画でなければならない。また、全体計画の別様についても道徳教育推進教師を中心に作成し、

授業実践を通して見直し活用できるものにしていく。

③チームメンタリングを通した授業実践・検討

伊勢原市で採択された教科書の資料等から学習指導案を作成し(P)、「考え、議論する道徳」への転換が図れるように指導の工夫をしていく。授業実践(D)は学年やブロックで行い、授業実践後にふりかえり(C)をし、次の実践に生かせるように全体教育計画や別様に反映(A)させる。このPDCAサイクルを回すことにより、育てたい子ども像にせまる道徳科の授業実践を行う。

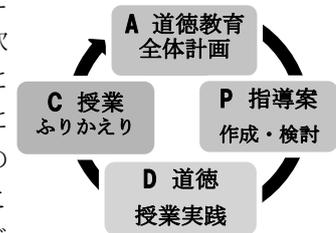


図1 道徳科の授業におけるPDCAサイクル

④特別の教科道徳の全体教育計画の作成

授業実践・検討を重ねながら本校の特色を生かしたよりよい全体教育計画となるようにしていく。

評価は、授業後に行う検討会、質問紙及びインタビュー調査を基に実施する。

5. 先行研究

各先行研究を参照しつつ「特別の教科道徳」の授業実践にあたり、新学習指導要領の理解や指導方法、評価について検討する。また、先行研究校の経過報告と成果及び道徳関係研究会への参加を通して学ぶ。

6. 主な参考文献

- 『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について』中央教育審議会答申 文部科学省平成28年12月21日
- 『小学校学習指導要領解説 特別の教科道徳編』文部科学省平成29年6月
- 『カリキュラム・マネジメント入門』田村学編著 東洋館出版社2017年3月1日
- 『道徳授業で大切なこと』赤堀博行著 東洋館出版社2013年10月25日
- 『考え、議論する道徳を実現する!』
- 『考え、議論する道徳』を実現する会著 図書文化社2017年6月20日